



LIBERA

volume

81
2011

まず一歩を
踏み出そう

—キャリアは広がる

「就勝実践camp」に参加した3年生(2011年8月3日～5日開催、於 ホテルプラザオーサカ)



CONTENTS

02 特集

まず一步を踏み出そう
—キャリアは広がる

06 「キャリア演習」受講生が語る
私の「はじめの一步」

08 2011年度大学予算及び
事業計画報告

12 [在学生インタビュー]

大西 裕太さん(法学部3年生)

14 [国際交流通信]

国際学生交流セミナー2011
第4回日中哲学シンポジウム

16 [教員が推薦する本]

『人生の時間銀行』

2011年10月24日発行

【編集】

大阪経済法科大学事務局庶務課

〒581-8511

大阪府八尾市楽音寺6丁目10番

TEL072・941・8211

FAX072・941・4426

<http://www.keiho-u.ac.jp/>

特集

まず一步を踏み出そう

—キャリアは広がる

将来の進路、それは、学生の皆さんにとって、
一番の関心事ではないでしょうか。

入学時に明確な志望を決めている人は多くありませんが、
大学での学びや経験を通じて、徐々に明確になっていきます。
今回は、本学の4年間を通したキャリア支援、キャリア形成教育の内容と、
「キャリア演習」を受講している学生の皆さんの声を紹介します。
積極的にキャリアに向き合えば、キャンパスライフが充実し、
将来の可能性が広がるでしょう。

厳しかった 2011年春卒業生の 就職状況(全国)

2008年のリーマンショックに端を発した金融危機は、世界同時不況を引き起こすなか、日本経済にも深刻な影響をもたらしました。以降、日本経済の低迷を背景に、新就職氷河期と呼ばれる、大学新卒者にとっては、厳しい就職環境が続いています。

2011年5月24日、2011年春に卒業した全国の大学生の就職率について、文部科学省・厚生労働省の調査が発表されました。調査結果によると、今春大学新卒者の就職率(4月1日現在は前年同期を0.7ポイント下回る91.1%)となり、調査を始めた1996年度以降、「就職氷河期」と表現された1999年度の水準と並び、過去最悪となっています。

また、朝日新聞社と河合塾の調査では、進路未決定者が2011年春卒業生の20.8%(86153人)に達することが明らかとなりました。

空前の逆風下、 本学学生は大健闘

全国就職状況でも述べたとおり、日本国内の雇用環境の悪化は、本学学生の就職活動においても例外なく、大きな試練となりました。

2010年度上半期には、内定獲得状況が前年度比マイナス5ポイント以上の落ち込みを見せるなど、就職活動の前半期は、困難を極めるものとなりました。2010年度下半期に入り、こうした厳しい就職状況の打開に向けて、カウンセリングとマッチングを軸とした個別支援の対策を強化するなか、本学学生の奮闘とも結びつき、最終的には前年度を6ポイントも上回る就職率を達成することができました。

具体的には、就職希望者524名のうち、483名が就職を果たし、就職率は92.2%に達しました。この就職率は、昨年の86.2%を上回るだけでなく、全国平均の91.1%をも上回る結果となりました。

「継続的」・「順次的」・「個別対応」、 これが本学キャリア支援の真髄！

2011年4月より、学生就職指導部を改編し、部門名称を変更の上、キャリア支援部をスタートさせました。このキャリア支援部は、3・4年次の進路指導・就職支援に加え、初年次より4年間を通じて、キャリア開発・形成のための包括的な支援（学年に応じたキャリアガイダンスの企画・実施、キャリア開発・形成に向けた支援と情報提供、インターンシップの企画・実施など）に取り組んでいます。

一方、キャリア形成教育については、「社会的自立・職業的自立に向けた価値観・態度・能力」の涵養を目的に、正課授業として講義科目と演習を展開しています。

1年次には、初年次教育プログラムと連携しながら、「キャリア開発Ⅰ・Ⅱ」を開講し、演習として2年次には「キャリアデザイン演習A・B」、3年次には「キャリア演習A・B」を配置しています。しかも、2・3年次は、専門演習とのWゼミを実現することで、少人数対話型の教育環境のなか、汎用的基礎力と実践力を養成していきます。

さらに本年度は、学生の研究発表とプレゼンテーション力の発揮の場として「学生プレゼンテーション大会」（7月30日）や

しての成長にもしっかりと受け継がれることを目指しています。

諦めないこと。 その頑張りが 内定の秘訣だ！

2012年春卒業予定者の就職活動については、前年度に引き続き、厳しい就職環境が続いています。直近の調査によると、2012年卒の求人倍率は前年度をさらに下回る、1.23倍となる見通しが発表されました。さらに、今年は3月の東日本大震災とその後の「原発」事故の影響が拡大しており、大企業を中心に採用選考時期が大きくずれ込むなど、学生にとっては就職活動の長期化が懸念されています。

こうしたなか、キャリア支援部では、4年生の就職活動への支援を強化しており、4月から6月にかけて連続的に学内での合同会社説明会を実施しました。

また、首都圏で就職活動を希望する学生の支援策として、「首都圏就活ツアー」（6月20日～23日）を企画・実施しました。このツアーでは、大阪―東京間の直行バスをチャーターし、本学の東京麻布台セミナハウスを拠点にしながら、約100社の企業セミナーに参加することができ

3年生の集中的な合宿研修である「就勝実践キャンプ」（8月3日～5日）を実施しました。

このように、キャリア形成教育とキャリア支援をしっかりと連携させながら、1年次より4年間を通じて、体系的で包括的なプログラムを実施しています。

一般的に、キャリア開発・形成の効果については、就職結果に関心が集まりがちになります。しかしながら、本来、キャリア開発・形成は、就職をもつて完結するのではなく、就職をステップに、その後の長い人生で継続されていくものです。

そのため、本学のキャリア形成教育・支援は、就業意識と就業行動に好影響を与えることで、学生自身が就職活動及び就職先満足度の高い就職を果たすとともに、就職後の社会人と

ました。今回のツアーで企業セミナーに参加した学生の中には、最終選考まで進んでいる学生が続出しています。

今後も厳選選考を軸とした就職氷河期の継続が見込まれますが、一方で追加求人の増加など、企業の採用活動は秋季に入っても活発化の様相を呈しています。

キャリア支援部では、個別会社説明会の開催を中心に、就職機会の拡大に向けた就職支援行事を相次いで実施します。このように、今年度の就職活動も今秋が第二のピークとなりますので、キャリア支援部では、4年生のみならずの最後の一踏ん張りを全力で応援します。

「首都圏就活ツアー」
（6月20日～23日）に参加した4年生



学内合同会社説明会



「就勝実践camp」
（8月3日～5日）で
成長した3年生



「学生プレゼンテーション大会」(7月30日)



「キャリア演習」で
服装チェックを受ける3年生



少人数参加型の「キャリアデザイン演習」(2年次)

私の「はじめの一步」

経済学部3年生 沢井 誠さん

3年生になってから大学演習クラスで、1年生にアドバイスをするメンターを勤めています。先日、私も手助けをして、パワーポイントを使った発表を行いました。すると多くのメンバーが1年生とは思えないほどしっかりと報告していたので、後輩に負けられないと「層やる気が湧いてきました」。

私自身は、1・2年次で「キャリア開発Ⅰ」から「キャリア開発Ⅳ」までのキャリア教育科目を受講しました。人前で話すのは苦手だったので、授業の中で発表する機会があり、苦手を克服することができました。3年次の「キャリア演習」では、グループワークの機会が増え、多様な業界についての研究や、マインドマップなどの技法を用いた自己分析に興味を持って取り組んでいます。少人数

クラスで、繰り返し発表し、質疑応答を行うことで、プレゼンテーションに自信を持てるようになりました。今では、もっと大人数の聴衆を前にして発表し、腕試しをしてみたいと思っています。キャリア支援部でプレゼン大会が企画されているので、エントリーするつもりです。

卒業後の進路については、まだ模索している段階ですが、今年の夏には、大阪府下の信用金庫でインターンシップを行う予定です。「中小企業論」で信用金庫のアドバイザーが町の部品メーカーの経営立て直しに貢献したという実例を知って、関心を持ちました。実際の業務に触れて、自分の進路としてマッチするの確かめてみたいと思っています。



今は、大人数の前で
発表してみたい。
経済と法律を
共に生かす公務員に。

岸本 奈々さん

沢井 誠さん

法学部3年生 岸本 奈々さん

私は、商業高校出身で簿記を勉強していたのですが、身近に国税専門官がおられたので、経済の知識と法の知識が生かせる職業だと感じました。国税専門官から関心が広がって、国家公務員行政職や検察事務官を志望するようになり、「キャリア開発Ⅰ・Ⅱ」の授業を通じて、「層公務員を目指す」という気持ちが強くなりました。

昨年は、2年次のインターンシップが新たに始まったので、私も参加し、法律事務所を受け入れて頂きました。期間は短かったのですが、法律を実際に運用する現場を知ることができて、とても参考になりました。

現在受講中の「キャリア演習」



マインドマップを発表する岸本さん

では、私もマインドマップを使った自己理解には、興味を持って取り組んでいます。マインドマップは、紙の中心に自分を書いて、そこから自分の性格や、行いたいことなどをどんどん放射状に書き連ねて、発想を伸ばして表現する技法で自己分析を進めることができます。演習では、グループで議論して、その結果を発表しますが、私はまだまだ少人数の前でも発表するときには緊張します。

授業以外では、1年生の「刑事法の基礎」で担当教員を補助するシナメンターを勤め、宅地建物取引主任者講座を受講しています。

今年の夏は、男女共同参画社会作りに向けた事業を実施している「クレオ大阪」でインターンシップを行うことが決まっています。公共サービスの実態に触れられるのが今から楽しみです。

「担当教員から一言」

教養部 山路崇正 講師

春学期の「キャリア演習A」では自己アピールできる経験をしっかり積むことを強調してきました。3年次の夏休みにインターンシップや資格に挑戦したうえで、秋からの「キャリア演習B」では、自らの経験をしっかりと文章で表現し、面接やグループディスカッションに対応できるコミュニケーション技能の習得を目指します。



松崎 令さん

法学部3年生 松崎 令さん
グループワークで
志望が明確に。

私は、元々金融関係全般に関心があり、1年次には特修講座（Sコース）の会計職基礎講座を受講し、日商簿記2級に合格することができました。その上で、2年次の夏は、会計事務所のインターンシップで、会計職の実務に触れることができました。

「キャリア演習」では、課題の業界研究で金融・証券業界に興味を持って取り組むこ

とことができました。また、グループワークが多いので、ワークの進め方、グループ内での司会・進行のしかたなどを経験できることがメリットだと感じます。演習を通じて、金融業界に進みたいとの志望を強く持ったので、今年の夏休み期間を利用して準備を行い、ファイナンシャルプランナー資格を取得し、将来の進路に結びつけたいと考えています。



2011年度大学予算及び事業計画報告

2011年度大学事業計画の概要

2011年度大学予算及び事業計画が3月28日の理事会で承認され、4月1日より執行されています。本学では、大学の主な財源である学生生徒等納付金収入すべてを教育研究の充実と大学の発展のために活用する、大学予算制度を導入しています。「2011年度大学予算書」は、11ページに記載したとおりですが、同予算に基づいて実施されている2011度の事業計画の概要を以下に紹介します。

2011年度の 重点項目

- 1 キャリア支援の充実とキャリア形成教育の強化
- 2 八尾駅前キャンパス開校に向けた教育力の向上
- 3 八尾駅前キャンパス建設計画の推進
- 4 教育におけるICT（情報通信技術）活用の一層の推進
- 5 創立40周年事業の実施

キャリア支援の充実

- 希望進路を徹底して実現するキャリア支援を充実し、就職率を向上させます。
東日本大震災の影響による企業の採用活動の遅れや景気低迷を背景とした厳選選考の継続により、大学生の就職は一段と困難な状況にあります。本学では、学生の希望進路実現のため、最善のキャリア支援を行います。
 - ・4年間一貫したキャリア形成支援システムを一層拡充します。
 - ・求人先の開拓・求人情報の収集及び学生への提供をさらに強化し、求人先と学生のマッチングを充実させます。
 - ・「就勝実践キャンプ」、学生各自のニーズに対応した丁寧な個別指導の強化に努めます。
 - ・「首都圏就活ツアー」の実施により、首都圏での就職活動を支援します。

キャリア形成教育の強化

- キャリア形成に資する教育改革を徹底します。
就職時点のみならず、生涯にわたるキャリア形成能力を育成するため、入学直後から段階に応じた体系的な教育を強化します。
 - ・キャリア形成力育成を強化するため、「キャリアデザイン演習A・B」（2年次）を新設し、「キャリア演習A・B」（3年次）を拡充します。
 - ・多様な形態の体験型参加型教育プログラムを実施します。

- ・学生が自己の学習成果を蓄積・確認できる「キャリアポートフォリオ」を導入します。
- ・中難易度以上の資格・検定試験合格者を増加させます。

教育力の向上

- 2012年八尾駅前キャンパス開校を機に花岡キャンパスとの二つのキャンパスの特色を生かし、経済学部、法学部の新コース制の提示、特修講座の強化・充実、初年次教育の発展等を図ります。「キャリア形成教育の充実」、「プロフェッショナルの育成」、「高度情報化社会への対応」、「地域連携における実践型教育」をコンセプトとした教育改革を推進します。
- カリキュラムにおいて、段階を踏まえた、体系的な教育を確立します。
 - ・演習教育において、各年次の到達目標を設定し、卒業論文、卒業研究として完結させます。
- 学生本位の大学改革、教育実績を生む教学改革を徹底し、「実学の経法大」にふさわしい成果を目指します。
 - ・法学部法曹コース、公務員コースを充実させ、法科大学院及び公務員試験合格実績を向上させます。
 - ・経済学部会計ファイナンスコースの充実により、公認会計士及び税理士試験合格者を輩出します。
 - ・豊かな人間性や課題探求能力を育てる教養教育を実現させます。
- 2012年八尾駅前キャンパス開校に向け

て、教育内容及び業務体制を計画的に準備します。

施設整備計画

- 八尾駅前キャンパス建設計画を推進します。
- 花岡キャンパスの整備計画を推進します。
八尾駅前キャンパス建設計画を推進し、2012年4月の開校に向けて、万全の準備を整えます。八尾駅前キャンパスは、近鉄八尾駅から徒歩5分に位置し、地上12階建の都市型キャンパスです。新キャンパスは、最先端ICT（情報通信技術）を駆使した新しい時代の学びを実現するフロア、難関資格やキャリア支援のためのフロアをはじめ、少人数対話型教育を実現する演習室・講義室、図書館、カフェラウンジを備えています。進化した学びの場であると同時に授業以外でも快適なキャンパスとなります。
- 花岡キャンパスにおいても、学生ホール棟「クロノス」の本格的運用、5号館の大規模リニューアルの具体的検討を中心にキャンパス整備計画を推進します。

教育におけるICT活用の推進

- モバイル情報端末等を使用した教育におけるICT（情報通信技術）活用の先進的な実践に取り組みます。
いつでも教育や学生サービスにアクセスできるキャンパスの実現に向け、情報環境の整備・充実を進めます。

創立40周年事業の実施

- 創立40周年に当たり、建学の理念を踏まえた大学の使命を学内外に明らかにし、大学に対する理解と共感を得ることに努めます。
本学は、1971年に創立され、2011年に創立40周年を迎えました。経済と法律を共に学び、「実践の中から真理を探究する実学の精神を持った人材」の育成に専心し、多くの卒業生を送り出してきました。2012年の八尾駅前キャンパスの開校によつて実現する新たな教育実践の特色、建学の理念、大学の使命及び教育実績を学内外に積極的に明らかにし、大学への共感を得られるように努めます。

国際教育プログラムの整備

- 国際教育プログラムを一層整備し、教育効果を向上させます。
外国語能力の向上、海外経験を通じた国際感覚の涵養を目指し、学生のキャリア形成に向けて海外インターンシップを拡充する等、国際教育プログラムを二層整備します。本学は、北京大学、ロンドン大学をはじめとする世

学生支援の拡充

- 学生ホール棟「クロノス」を積極的に活用し、学生生活の活性化を図ります。
- 課外活動支援の体制を整備し、多様化する学生ニーズに応える学生支援を強化します。
学生ホール棟「クロノス」の活用、メンターによる学生の相互支援等を通じて、学生が成長を自ら実感できる大学を実現します。課外活動を支援する体制を整備し、学生の諸活動の活性化を図ります。
- 東日本大震災に際しては、被災した学生に対して、授業料減免の特別措置を行い、経済的に支援し、さらに学生団体による被災地への義援金募金等の自主的な活動を奨励しています。

- 大学には、教育の質保証・向上が要請されており、同時に学生の就業力育成のために、社会的・職業的自立に向けた指導に取り組むことが求められています。本学は、創立40周年を実学教育の新たな実践の契機とし、教育研究機関として社会の負託に応えるため、教育の一層の質的な飛躍に挑み、その完遂へ邁進してまいります。

2011年度
大学予算収支概要

収入について

2011年度の収入の概要は、以下のとおりです。（金額は、全て概算額です。）

①「学生生徒等納付金収入」
24億3千万円

新入生、在学生から納めていただく入金、授業料、実習費等の学費です。本学における、主要な財源となっています。

②「手数料収入」
4千万円

入試の検定料や成績証明書など、各種証明書の発行手数料及び、大学入試センター試験実施手数料です。

③「大学整備充実資金運用収入」
1億円

大学整備充実資金の運用利息収入です。安全性と効率性を勘案し預金や国債で運用しています。

大学整備充実資金の内容は次のとおりです。

・「建物等減価償却引当特定資産」（建物及び構築物の減価償却分を積立て、建物等の建

替えや施設等の充実に活用する特定資産）
・「建物等修繕引当特定資産」（長期修繕計画に基づき、修繕費を積立てている特定資産）
・「八尾駅前キャンパス建築引当特定資産」（2011年11月末完成予定の八尾駅前キャンパスの建築工事代等を引当てた特定資産）

・「退職給与引当特定資産」（教職員の退職金の支給のために積立てている特定資産）

・「大学将来対策引当特定資産」（大学の将来の充実・発展のために積み立てている特定資産。支出超過額の補填にも充当する。）

④「雑収入」
1千万円

科学研究費補助金（文部科学省による研究費助成）の間接経費その他の収入です。

支出について

2011年度の支出の概要は、以下のとおりです。

①「人件費支出」
17億3千万円

専任教職員や非常勤講師、嘱託職員・契約職員等に支払われる給与、手当及び退職給与引当特定資産繰入支出額などです。

2011年度大学予算書

2011年4月1日から2012年3月31日まで

（単位：千円）

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	2,433,584	人件費支出	1,733,617
授業料収入	2,316,384	教員人件費支出	917,098
入学金収入	113,000	職員人件費支出	713,202
その他納付金収入	4,200	退職給与引当特定資産繰入支出額等	103,317
手数料収入	42,255	教育研究経費支出	597,033
入学検定料収入	40,000	報酬委託手数料支出	200,184
試験料収入	155	奨学費支出	75,648
証明手数料収入	2,100	光熱水費支出	74,643
大学整備充実資金運用収入	97,000	その他教育研究経費支出	246,558
雑収入	7,403	管理経費支出	297,718
		印刷製本費支出	57,855
		報酬委託手数料支出	31,497
		旅費交通費支出	9,741
		その他管理経費支出	198,625
		建物等減価償却引当特定資産繰入支出額	376,916
		建物等修繕引当特定資産繰入支出額	100,000
		その他の支出	54,680
収入の部合計	2,580,242	支出の部合計	3,159,964
		当年度支出超過額	579,722

（この2011年度大学予算書は、本学が予算管理目的のために設定している「大学の予算」の収支を勘定科目別に表示したものです。）

※当年度支出超過額は、大学将来対策引当特定資産を取り崩して補填する。

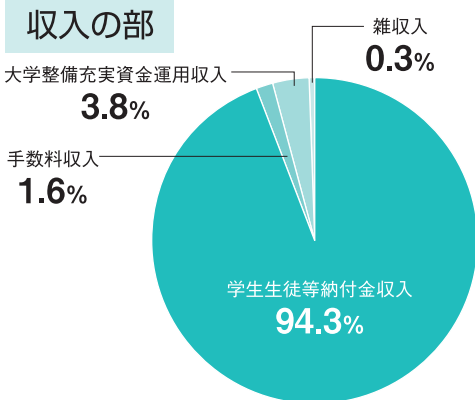
大学整備充実資金（2011年度期首残高）

（単位：千円）

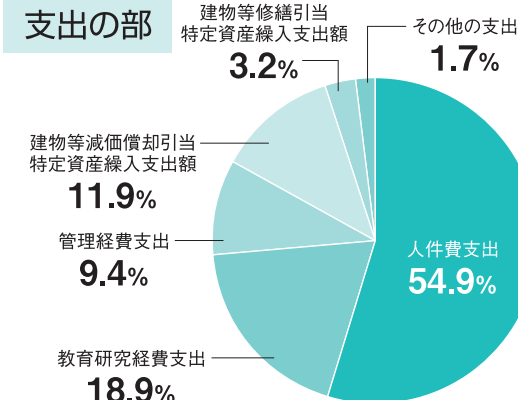
建物等減価償却引当特定資産	3,007,698
建物等修繕引当特定資産	940,772
八尾駅前キャンパス建築引当特定資産	1,725,363
退職給与引当特定資産	1,503,925
大学将来対策引当特定資産	3,100,233
合計	10,277,991

収支構成図

収入の部



支出の部



②「教育研究経費支出」
6億円

教育、研究に直接要する経費であり、前項の事業計画に沿って編成しています。今年度において主な内容は、①各種奨学費事業に8千万円、②特修講座や資格講座等の開講事業に7千万円、③キャリア支援や就職指導の充実事業に4千万円、④モバイル情報端末のアプリケーション開発など情報環境や情報教育の強化事業に2千万円、⑤国際教育の充実事業に2千万円、⑥課外活動への支援事業に2千万円、⑦初年次や2年次の教育充実事業に1千万円等となっています。

③「管理経費支出」
3億円

教育研究活動を支える大学管理運営上の経費や、学生募集経費などです。

④「建物等減価償却引当特定資産への繰入支出額」、
「建物等修繕引当特定資産繰入支出額」
4億8千万円

それぞれの特定資産の設定趣旨に基づいて、毎年度所定の金額を繰り入れます。

⑤「その他の支出」
5千万円

教育研究用の機器備品・図書などの購入費です。



ボランティアで訪れた被災地(宮城県牡鹿郡女川町)



近鉄八尾駅前で
義援金募金活動

翌日、ボランティア活動を行う宮城県牡鹿郡女川町に到着したときには、それまで見てきたものとは、まったく比べものにならない惨状が目の前に広がっていました。辺り一面、建物も信号もなく、ただ瓦礫の山しかありませんでした。それは、本当に今までここに誰か人が住んでいたのだろうかと思わず疑ってしまうような光景でした。

今回、私たちが参加したボランティア活動の主な業務は、瓦礫処理を行うことだったのですが、いくら撤去しても瓦礫が減らず、何度も心が折れそうになりました。しかし、被災地の方々は、この何倍も何十倍もつらい思いをしているにもかかわらず、ボランティアに参加している私たちに、温かい言葉や差し入れなどをしてくれました。被災地の方々は、私たちが想像している以上に前向きに生きており、その姿は本当にたくましく、力強さを感じました。

東日本大震災復興支援 実行委員会を結成

4日間のボランティアを終えて大阪に戻った後、月日が経つにつれ、被災地以外で生活している私たちの被災地・被災者への意識が薄れているのではないかと感じました。

私は、今回、実際に自分が被災地を見た現状や被災者の声を一人でも多くの学生や教職員に伝えることができないか、また被災地の復興支援に関心がある人たちが集まり、何か行動を起こすことができないかと考え、東日本大震災復興支援実行委員会を結成しました。

「感謝」の気持ちを 目標達成の原動力に

今回のボランティア活動を通じて、「感謝」という気持ちを持つことの大切さを学ぶことができました。学生団体の活動や、クラブ活動においても、たくさんの人の協力と支援、応援などがあつてからこそ成り立っているのだと思います。周囲からの協力や支援、応援に対し、常に感謝の気持ちを持ち続けることで、人と人との繋がりがさらに深まり、より充実した活動を行っていくことができるのではないかと感じます。一人の力は微力であっても、十人集まれば十倍に、百人集まれば百倍になります。

私は将来、消防士になり、東京消防庁の特別高度救助隊員(ハイパレスキュー隊員)として活躍したいという夢を持っています。小学生の頃から消防士になりたいという思いを持っていたのですが、今回のボランティア活動を通じて、その思いがさらに強くなり、いまはその夢の実現に向け、Sコースでの勉強と体力作りに日々励んでいます。必ず消防士になり、震災や火災などの災害に遭われた方々の命や財産を守りたいと思います。



義援金を八尾市に持参
(右から3番目が田中誠太八尾市長)

3月11日に東北地方を中心に発生した東日本大震災の第二報に接し、震度の大きさに驚いたのと同時に、私が小学生の頃に経験した阪神・淡路大震災のことを思い出しました。そして、被災地の人は大丈夫なのかと大変心配になりました。それは、阪神・淡路大震災のときに、私の祖母が兵庫県で被災し、その大変さを目の当たりにしていたからです。

時間が経つにつれ、報道を通じて被災地の現状を知り、多くの被災者の方々が苦しんでいる様子が伝わってきました。私たち学生も、自分たちも何か被災地のためにできることがないかと考え、学生3団体(学友会執行委員会、体育会、文化会)が中心となり、義援金募集活動を実施しました。

今回の義援金募集活動も学生団体の活動として見れば、

自分の無力さを痛感するとともに、 人の「温もり」を実感

私たちは、ボランティア活動に必要な用具一式を取り揃え、車で片道13時間をかけ、現地の宮城県に向かいました。途中、今回の震災で大きな被害を受けた福島県を通過しました。通

一定程度の成果はあったと思います。しかし、自分の中では「義援金募集活動以外にも、被災地の復興支援につながる取組ができるのではないか」との思いがあり、何かもどかしさを感じながら日々を過ごしていました。

そんなとき、友人から被災地でのボランティア活動について話を聞き、「現地で直接復興支援の手助けをしたい、被災地の現状を自分の目で確かめ、学友たちにその現状を伝えたい」という思いを強く持つようになり、友人たち4人と一緒に被災地での現地ボランティア活動に参加することを決意しました。

東日本大震災から得た教訓を生かし、一人でも多くの人命を救える

消防士

ファイヤーマンになりたい!

生涯忘れることのできない3・11 ボランティア活動参加を決意

在学学生インタビュー Interview

大西 裕太さん
(法学部3年生)
体育会本部長・東日本大震災復興支援実行委員長



大西さんは、1年生のときから体育会本部(体操競技部)に所属し、今年6月からは、体育会本部長に就任し、体育会活動を統括する重責を担っています。

TPPは成長をもたらすのか

6カ国・地域の大学生が
第5回国際学生交流セミナーで友情を深める。

大阪セミナーの基調講演を行うバルダス経済学部教授(於:学生ホール棟「クロノス」3F「ガリオン」)



今年で5回目を迎えた国際学生交流セミナー、今年は、昨年度の5大学(本学、復旦、崇実、ロシア極東連邦、台湾)に、モンゴル国立大学の学生たちを新たに迎え、6カ国・地域の大学生たちによるセミナーとなりました。

の海外協定校の教職員並びに学生からの理解と協力により無事実施することができました。その意味で、本セミナーは「復興に向かう日本の姿」、「日本の魅力と安全性」についてアピールする機会となりました。

国際学生交流セミナー2011概要

【テーマ】『TPP—環太平洋戦略的経済連携協定—は成長をもたらすのか』
—TPP Trans-Pacific Partnership and Asia's Growth—

【参加大学及び参加学生数】

- 大阪経済法科大学: 10名、崇実大学(韓国): 10名、復旦大学(中国): 10名、ロシア極東連邦大学: 2名、国立台湾大学: 2名、モンゴル国立大学: 1名
- 【開催場所】(1) 2011年8月17日~21日 韓国ソウル 崇実大学
- (2) 2011年8月21日~26日 日本大阪 大阪経済法科大学
- (3) 2011年8月26日~30日 中国上海 復旦大学

国際学生交流セミナー2011で得た問題意識

法学部 3年生 加藤 功大 (本学学生リーダー)

このセミナーを通じて得たもの。それを、「新しい友達ができた」とか「自分自身の成長を実感できた」等の月並みの感想で表現することは不可能です。私が得た問題意識は、様々な軌轢や葛藤が今なお心を支配する6カ国・地域の学生たちとお互いに理解し、その絆を深めるために、自分に何ができるのかということです。その問題意識をしっかりと心に刻み、残りの大学生活を歩んでいきたいと思っています。セミナーのおかげで、私はただの日本人としてではなく、「国際社会の一員」という立場から世界を見るということに少しだけ近づけた気がします。



友情を培ったセミナー参加者(上海・復旦大学)

学生交流支援制度(日本学生支援機構)による支援プログラム」に採択されました。

セミナーは、「TPP—環太平洋戦略的経済連携協定—は成長をもたらすのか」をテーマにソウル、大阪、上海の順で実施され、6カ国・地域、35名の大学生たちはセミナー終了までの2週間、寝食を共にしました。日本、韓国、中国のそれぞれの国において、基調講演、学



討論の合い間に交流する参加者

フィールドワークで異文化を体験(上海セミナー)



グループディスカッション(ソウル・崇実大学校)

「第4回日中哲学シンポジウム」を共同開催(於:中国・北京大学)

9月16日(木)・17日(金)の2日間、本学の姉妹校である北京大学において、「21世紀の思想的課題—転換期の価値意識」というテーマの下、哲学シンポジウムが開催されました。



第4回日中哲学シンポジウム開会式

本学アジア太平洋研究センターと北京大学哲学系(学部)により共同開催されました。シンポジウムは、テーマ別に3つのセッションで構成され、27名の研究者が最新の研究成果を発表し、日中各々あるいは両国に共通する哲学的課題について、活発な議論が交わされました。

日中哲学シンポジウムは、本学と北京大学による姉妹校協定締結後の1988年に初めて開催され(いずれも本学と北京大学の共催)、今回が第4回目となります。過去3回のシンポジウムでは、「現代における唯物弁証法」(第1回)、「現代社会と唯物弁証法」(第2回)、「世紀の交における哲学思考」(第3回)というテーマの下、日中両国の哲学研究者が集い、大いに発表と討論が繰り広げられました。

なお、本学からは、武者小路公秀教授(アジア太平洋研究センター所長)、山根共行教授(教養部)、金泰明教授(法学部)の3名が発表を行いました。

セッション名

- 第1セッション
「人間と自然・社会—存在論的・価値論的」
- 第2セッション
「個と共同性(共生)—近代哲学の観点からのアプローチ」
- 第3セッション
「近代化と多様性—現代における歴史的反省」

教員が推薦する

今、学生たちに 読んで欲しい本



経済学部
高砂謙二 准教授

この本に出会ったのは、数年前、翌日の学会発表を控えて、高鳴る気持ちを抑えるため立ち寄った新横浜駅前の小さな書店でした。当時の私は、大学を卒業後、企業で勤務の傍ら、大学院に通いつつ、大学非常勤講師をし、学会での研究活動が続けていました。

社会人なら分かることですが、普通に仕事をこなすだけでも大変で、勉強する「時間」は捻出できないのが実態だと思います。1分1秒に追い立てられながら過ごす日々疑問を感じつつも、自分の夢に向けて頑張っていました。

ふと出会った小さな書籍の内容が気に入り、一気に読み終えてしまいました。人間は平等だと言いますが、厳密には平等ではありません。学力や運動能力、親からの財産等々、生まれながらに様々な違いが存在しています。荒い表現をしますと、「親は子供を選べますが、子供は親を選ぶことはできません。」人間は最初のスタート時点から平等ではありません。しかし、全世界の人間に平等に唯一与えられているものがあります。それは、「時間」なのです。

大学の教壇に立って一番感じることは、大学生の「時間」に対する考え方の甘さです。講義を欠席・遅刻すると「バイトが忙しくて」「サークル活動が忙しくて」等々と言いつてをします。学生の本分は「勉強」です。それぞれに事情があるのですが、アルバイトやサークル活動をするために大学に入学したのではないにもかかわらず、講義に出席



吉田 浩 著(2008年)

『あした元気になるために 人生の時間銀行』

扶桑社:定価980円(税込)

しないでアルバイトやサークル活動を優先させているように見える学生が少なからずいるのは大変残念なことです。勉強は字のごとく強いて勉めるものでつらいことかもしれませんが、楽なこと・遊ぶことは余暇の時間にしてこそものではないでしょうか。この本には「時間泥棒」という言葉が出てきますが、「時間泥棒」を招く生き方をしてしまっていないか、ぜひ今、学生時代に考えてほしいと思います。

社会人になって前述のような言い訳は通用しません。会社が始まる時間に遅れることは絶対に許されません。前日、どんなに疲れていても、定刻に出社し、与えられた職務をこなすことが仕事では求められます。

このような失敗をしないためにも、早めに心の切り替えを行い、心に余裕を持つことで、より豊かな人生を送ることができます。心の切り替えには、「時間」に対する意識を変えることが求められます。

この書籍では、この地球上に住む全ての人々に等しく与えられる「時間」を、日々使い切らねば消えて無くなってしまいう預金になぞらえて、解説しています。短い本ですが、真剣に向き合えば、必ず示唆を与えてくれます。「時間」の大切さに気がついた時、あなたの生活は変わります。自ら自覚し、目的に向かって行動するのが「大人の行動」です。特に、夢に向かって努力している人にお勧めしたい一冊です。